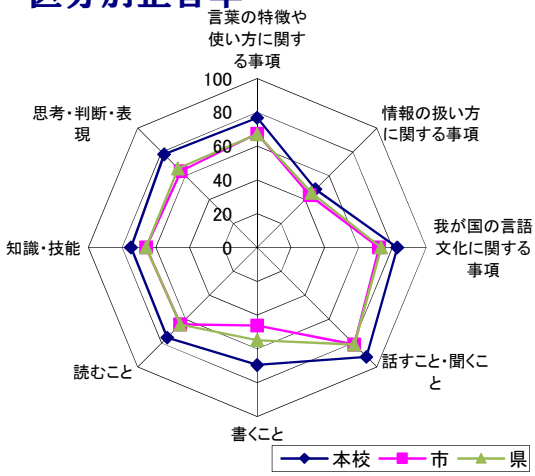
宇都宮市立雀宮東小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	48.8	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	82.9	72.1	73.4
	話すこと･聞くこと	91.5	81.2	81.2
	書くこと	69.5	46.2	54.9
	読むこと	75.3	64.3	64.5
観点	知識･技能	74.7	65.7	65.7
	思考･判断･表現	77.9	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

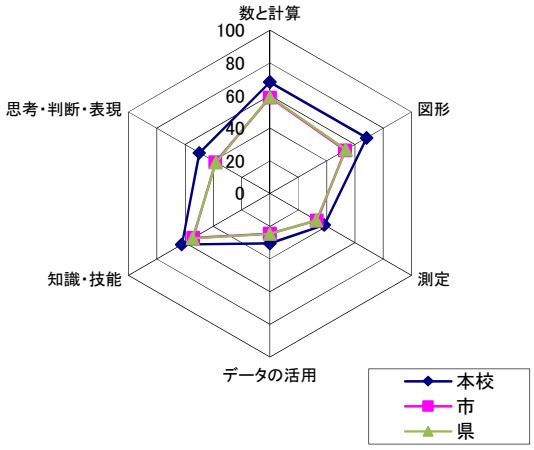
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市や県より高い。 ○「第3学年に配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。宿題や自主学習で，漢字練習に継続して取り組んできた成果であると考えられる。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読むことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	･新出漢字の指導では，繰り返し漢字練習をしたり，AIドリルを活用したりすることで定着を図る。また，既習の漢字は，他の教科においても，積極的に使うようにし，様々な場面で日常的に使えるようにする。 ･授業や家庭学習で，復習プリントやAIドリルを活用し，繰り返しローマ字の問題に取り組むことで，知識の定着を図るようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市や県より高い。 ○「国語辞典の使い方を理解し，使うことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。学習に国語辞典を積極的に活用している成果であると考えられる。	･国語の授業だけでなく，どの教科においても，分からない言葉が出てきたときには積極的に辞書を活用する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市や県より高い。 ○「漢字のへんとつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくることができるかをみる」問いでは，県の正答率より高い。	･新出漢字を学ぶ学習では，へんやつくりを意識できるように指導する。また，既習の漢字においても，へんやつくりによる仲間集めをする機会を，意図的に設定する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市や県より高い。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い，参加者の発言を基に，考えをまとめることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。国語の授業だけでなく，他教科にわたり，自分の考えや思いを話す場面を，意図的に設定している成果であると考えられる。	･学級活動，朝の会，帰りの会などにおいて，スピーチや話合い活動を積極的に取り入れ，発表する力を育てる。また，自分の考えを話すことに自信をもったり，話すことに喜びを感じたりする場面を意図的に設定する。 ･授業で，自分の考えを発表する場面を意図的に設け，話す機会を増やす。 ･段階を踏んで自分の考えを伝える練習を行い，理由を挙げて話すことができるようにする。 ･話合い活動では，相手が伝えたいことは何かを考え，その内容に合わせて，自分の考えを話すことができるようにする。
書くこと	平均正答率は，市や県より高い。 ○「段落の役割について理解し，２段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。国語の授業だけでなく，宿題で作文指導を継続して行っている成果であると考えられる。	･学校統一で行っている日記･作文指導で，指定された文字数で文章を書く練習を繰り返し行う。 ･授業で，「理由や事例を挙げているか」など，ポイントを意識して文を書かせるようにする。また，自分で読み直したり，友達と読み合ったりして言いたいことが伝わるかを確認したりする。

読むこと	平均正答率は，市や県より高い。 ○「情報と情報との関係について理解し，中心となる語や文を見付けて，要約することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，説明文の学習で，段落の内容を読み取り，文章の構成を捉えることができるよう，学習に取り組んでいる成果であると考えられる。 ●「登場人物の気持ちについて，叙述を基に捉えることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・物語文や説明文の学習では，登場人物の心情を読み取ったり，段落の内容を読み取ったりする時間を十分に確保する。 ・プリント学習で，教科書に出てくる物語文や説明文以外の文章を読んで，問題を解く機会を設定する。 ・引き続き，朝の読書の時間や読書週間，家読などを通して，読書の習慣の定着を図る。また，物語文や説明文など，ジャンルを問わず，様々な文章に親しませる。

宇都宮市立雀宮東小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	58.9	59.2
	図形	68.3	53.0	53.7
	測定	38.4	33.1	32.6
	データの活用	30.5	24.4	24.6
観点	知識・技能	62.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	50.0	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

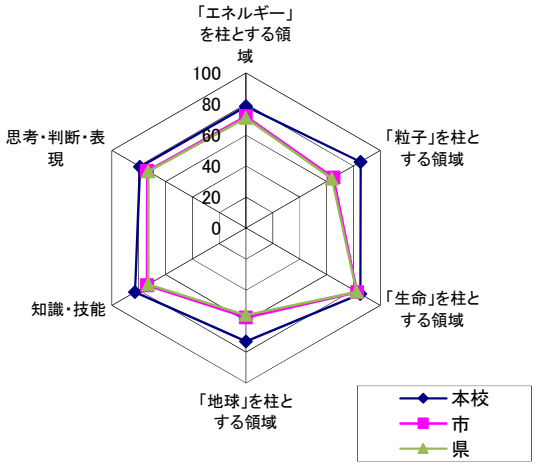
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市や県よりも高い。 ○「式の意味を正しくとらえ，言葉で説明することができるかどうかをみる」問いや「□を使った乗法の式に合った文章を選ぶことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。授業で，乗法の計算の仕方や意味について説明し合う活動を継続的に行ってきたことで，乗法の意味をよく理解していると考えられる。 ●「大きな数を表す大きさを理解しているかどうかをみる」問いや「同分母の分数の加法の意味や計算の仕方を説明することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも低く，課題が見られる。	・数量の表し方や構成について，朝の学習やAIドリル等を活用して繰り返し取り組み，確実な定着を図る。 ・授業の中で，計算の仕方や意味について，児童が言葉や式を用いて表現し，説明し合う活動を今後も継続し，さらなる指導の充実を図る。
図形	平均正答率は，市や県よりも高い。 ○全ての問いで県の正答率を上回っている。特に「円の性質を利用して，正三角形を作図することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりもかなり高い。 ●同じく「円の性質を利用して，正三角形を作図することができるかどうかを見る」問いでは，無解答児童の割合が県よりもやや多い。	・コンパスの基礎的な使い方は，よく理解できている。円の性質を利用して図形をかく活動を繰り返し行い，定着を図る。 ・問題文で問われている内容を適切に読み取り，正しく理解できているかを確認する場を増やし，児童が自信をもって問題に取り組めるようにする。
測定	平均正答率は，市や県よりも高い。 ○「重さの単位を理解し，合計の重さの大小を比較することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも高い。	・今後も，具体物を操作する体験的活動を多く取り入れることで，「測定」に関する感覚を育てられるようにする。 ・引き続き，AIドリル等で復習の場を設け，「時間と時刻」「長さ」「重さ」などの基礎的事項の定着を図る。
データの活用	平均正答率は，市や県よりも高い。 ○「目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて，数の比べ方を説明することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも高い。グラフを比較する際に，１目盛りの違いに注目することを繰り返し指導してきた成果である。 ●「適切な棒グラフから，示された値を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも低く，課題が見られる。	・複数のグラフを取り上げ，比較したり，読み取ったことを正しく説明したりする学習活動を積極的に取り入れる。 ・今後も，他教科との関連を図りながら，グラフや表を用いて表現したり考察したりする場を設けることで，データを扱うことの有用性を感じられるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.5	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	85.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	85.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	73.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	82.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	79.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市や県より高い。 ○「日光を集めたときの明るさとあたたかさについて理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ○「実験の結果から回路の見えない部分について推測できるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 これらは，児童の興味関心を高めて授業を行うことができた成果であると考えられる。 ●「磁石の性質のうちおもちゃに利用した性質を推測することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・実験結果から推測する問題の正答率が高かったことから，今後も問題解決の過程を大切にしながら授業を行い理解を深めていく。 ・磁石の性質に関する問いの正答率が低かったので，実験を通して既習事項の確認を行ったり，繰り返し復習問題を解いたりして，理解を深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市や県より高い。 ○「同じ体積でも，ものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。	・ものと重さについての内容は，十分に理解しているので，今後は復習プリントを活用して発展的な問題に取り組ませていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市や県より高い。 ○「植物のめばえについて理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，生き物や植物を観察する時間を多く確保し，観察する視点を丁寧に指導している成果であると考えられる。 ●「虫めがねの使い方を身に付けているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。 ●「植物の一生について差異点や共通点を見出すことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・道具や実験機器を使用する授業では，実験のたびに，それらの使い方を説明してから実験に臨むようにする。 ・ひょうたんの一生とこれまでに育てた経験のある植物の一生を表に整理して差異点や共通点を確認し，理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市や県より高い。 ○「方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ○「太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。学習内容を生活の中で活用できるよう指導した成果であると考えられる。	・かげと太陽についての内容は，十分に理解しているので，今後はAIドリルや復習プリントを活用して，発展的な問題に取り組んでいく。 ・体験する機会を設定することや条件や時期により観察が困難である分野は，映像資料を活用して理解が深まるよう，授業を展開する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第４学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は（71.1%）で市の平均と比べると8ポイント以上高い。家庭学習ファイルの活用や自主学習ノートでの復習，年2回のパワーアップウィークの実施により，児童に家庭学習の習慣が身に付いている成果であると思われる。今後も，取組を続けるほか，家庭学習の時間や内容にも着目して，充実した家庭学習ができるように働きかけていきたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した児童の割合は（66.7%）であり，市の平均と比べると16ポイント以上高い。児童が発言しやすい雰囲気の学級づくりや，児童の発言を引き出すような授業実践に取り組んできた成果であると考えられる。今後もこれらの取組を継続し、児童主体の活発な授業の実践を図りたい。

○1か月での読書量について，5冊以上本を読んでいる児童の割合は（77.8%）で市の平均と比べると26ポイント以上高い。朝の読書タイムや読み聞かせを実施し、毎週末の宿題で「家読」を取り入れるほか，図書委員会を中心とした読書を広める活動、毎週1回、図書室を利用する時間を確保することなどにより，読書に親しむ児童の育成に努めている成果であると考えられる。今後もこれらの取組を継続させ，読書の習慣化を図りたい。

○「普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく）。」の質問に対して，「１時間以上」と回答した児童の割合は（13.3%）であり，市の平均と比べると10ポイント以上下回った。携帯電話やスマートフォンの家庭での適切な使用ができるよう，児童や保護者に啓発を続けた成果であると考えられ、今後もそれらを継続していきたい。

○教科別に学習が好きかどうかについての質問では，算数に対して肯定的な回答をした児童の割合は（80.0%）で，市の平均と比べると12ポイント以上上回った。少人数指導やT・Tでの指導など単元によって指導体制を工夫することで，個に応じた支援を充実させたり，宇都宮モデルを生かした授業を展開し，主体的・対話的な学習に向けての支援を継続したりしてきた成果であると考えられる。今後も取組を続け，児童の学習意欲を高めていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は（82.2%）で，市の平均と比べると14ポイント以上高い。これは，当番活動や係活動などの特別活動の充実や帰りの会で児童の善い行いを教師や児童が発表する「今日のにっこりさん」の取組により，児童の自尊感情が高まっていると考えられる。今後も，児童同士が認め合える雰囲気の醸成を目指していきたい。

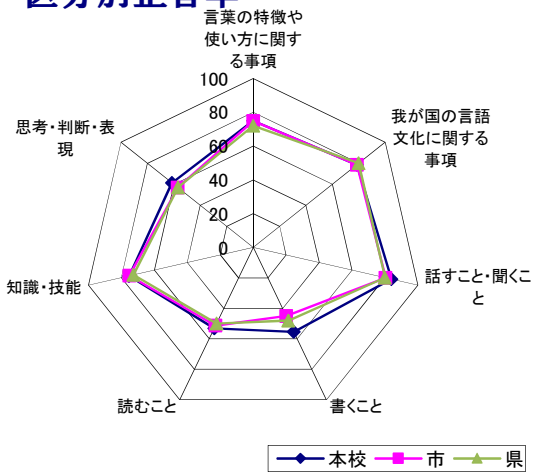
●「学級活動の時間に，友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めている。」と回答した児童の割合は（73.3%）で，市の平均を下回った。児童自らが学級や学校の環境を良くしていこうと考え，行動していく自主性を身に付けるため，今後は学級活動を中心とする話合い活動などを充実させていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」と回答した児童の割合は（68.9%）で，市の平均を下回った。授業の中でニュース番組や新聞記事を用いて資料を提示したり，学習問題に取り入れたりするなどして，児童の時事問題への関心を高めていきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	78.6	79.9
	話すこと･聞くこと	83.9	80.4	80.0
	書くこと	55.4	45.1	48.0
	読むこと	53.1	51.3	50.0
観点	知識･技能	75.3	75.2	72.8
	思考･判断･表現	61.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

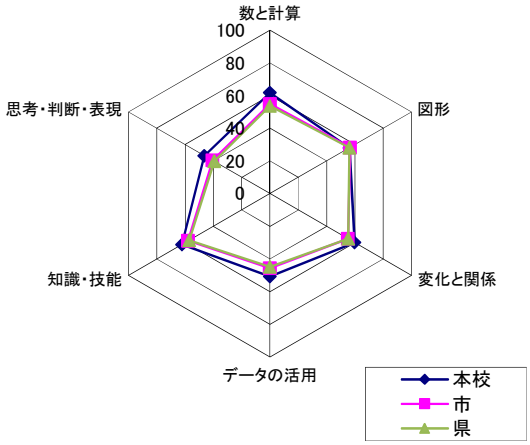
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市とほぼ同じで県より高い。 ○「第4学年に配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，定期的に漢字小テストを実施し，覚える意識をもって漢字練習を行うように指導を続けてきた成果であると考えられる。 ●「文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	･朝の学習や家庭学習で，5年生で学ぶ漢字だけでなく，前年度までに習った漢字も含め，既習漢字の定着を図っていく。 ･授業で主語と述語･修飾被修飾の関係などの言葉の決まりについて意図的に考えさせ，作文するときに活用できるよう指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市と同じで，県よりやや高い。 ●「慣用句の意味を理解して，自分の表現に用いることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりやや低く，課題が見られる。	･授業の中で慣用句を使った表現が出てきた際に，意味について確認したり，慣用句を使って文をつくる活動を取り入れたりして，慣用句に触れる機会を多く設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市や県より高い。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，話合いの際には注意深く聞くことや相手意識をもって話すことの意義を継続して指導している成果であると考えられる。 ●「話合いの目的を確認し，意見の共通点や相違点に着目しながら，自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	･国語の授業だけでなく，他教科にわたり，相手の話の意図を考えながら聞くよう，継続して指導する。 ･ペアやグループ，学級全体で話し合う際には，自分の考えと比べながら話を聞いたり，意見を発表したりできるような指導を行う。
書くこと	平均正答率は，市や県より高い。 ○「内容の中心を明確にし，事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ○「内容の中心を明確にし，事実と自分の考えを書くことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，要旨をまとめたり，短く文章を書いたりする指導や日記指導で文章を書く機会を多く取り入れてきた成果であると考えられる。	･自分の考えを文章にまとめたり，友達の書いた文章の要旨を考える機会を設定したりして，文章を書く機会を多く設ける。
読むこと	平均正答率は，市や県より高い。 ○「文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，説明文や物語文を読んで感じたことや分かったことを伝え合う活動を意図的に多く取り入れてきた成果であると考えられる。 ●「登場人物の気持ちの変化について，具体的に想像することができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	･読書活動や家読も引き続き推進して，様々なジャンルの本に触れる機会を意図的に取り入れる。 ･物語文の学習では，登場人物の気持ちの読み取りを丁寧に行い，場面ごとに気持ちの変化に気付けるような指導の工夫をする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.7	54.9	53.7
	図形	56.0	56.6	56.1
	変化と関係	59.8	55.1	55.2
	データの活用	50.7	45.5	44.8
観点	知識・技能	62.2	57.8	57.2
	思考・判断・表現	46.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

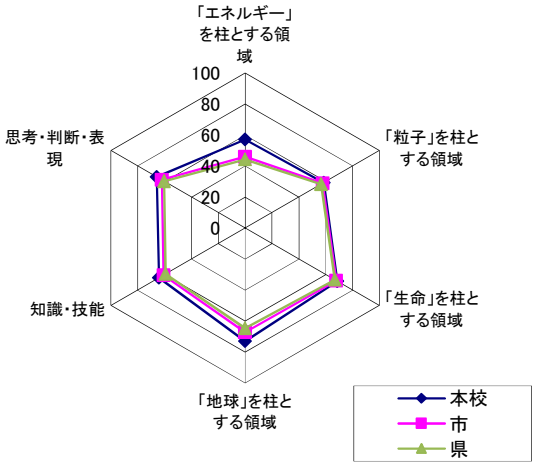
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市や県より高い。 ○「数直線上の目盛りが示す分数を読み取り仮分数で表すことができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも高い。問題文から数直線を作図し，分数を読み取る指導を継続している成果であると考えられる。 ○「少数第一位÷整数＝少数第二位（商が純少数）の計算ができるかどうかをみる」問いでは，県や市の正答率よりも高い。 ●「四則混合の式の計算の順序を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・朝の学習の時間やAIドリルを活用し，基礎的事項の定着を図る。 ・単元に応じて，練習問題やミニテストを計画的に取り入れ，基礎学力の定着を図る。 ・復習プリントやドリルを継続して活用し，計算の力を伸ばすことができるよう支援する。
図形	平均正答率は，市よりやや高く，県とほぼ同じである。 ○「180度より大きい角の大きさの求め方を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ○「立体の展開図を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも高い。展開図を作図したり，展開図を組み立てたときに重なる頂点や辺，面の関係について調べたりする学習を継続して行ってきた成果であると考えられる。 ●「立体の辺と面の位置関係を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・授業で問題や練習問題に取り組む時間を確保し，学習の定着を図る。 ・具体物の大きさを問う授業を行うことで，児童が量感を捉えられるようになってきている。引き続き量感を意識した指導を行う。 ・授業の中で，児童が実際に立体の模型に触れながら辺と面の位置関係を理解できるようにする。
変化と関係	平均正答率は，市や県より高い。 ○「比べ方について，差を用いる場面と割合を用いる場面について説明するかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ●「割合のしくみを理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・児童が表や問題の意図を読み取れるよう，身近な題材を用いたり，操作活動を取り入れたりする。 ・練習問題に取り組む時間を確保したり，伴って変わる量の意味を児童が自分の言葉で説明する機会を設けたりして，より理解が深まるよう支援していく。
データの活用	平均正答率は，市や県より高い。 ○「折れ線グラフから必要なことを読み取れるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。算数で学んだことを他教科とも関連付け，表を読み取る経験を積んできた成果であると考えられる。 ○「グラフから正しく変化の様子を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率よりも高い。	・グラフや表から読み取った内容をグループや学級全体で話し合うことで，児童が言葉で説明しながら理解を深められるようにする。 ・1人1台端末を活用し，児童が様々な考え方に触れる機会を今後も意図的に設定していく。 ・データ活用に関する問題を身近な日常生活の場面に即した内容にし，児童が意欲的に取り組むことができるよう工夫する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	57.1	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	58.6	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	73.0	67.2	64.6
観点	知識・技能	64.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	65.9	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市や県より高い。 ○「乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。 ○「簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き，針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，実際に簡易検流計を使ったり，回路を操作したりする経験を積みながら指導している成果であると考えられる。	・実際に器具を操作する中で，今後も基礎的事項の理解と定着を図るようにする。 ・実験の結果を共有し話し合うことを通して，結果から分かることやなぜそうなったのかを説明できるように指導していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市よりやや高く，県より高い。 ○「とじこめた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けることができるかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，実験を積み重ね，自分の生活経験とつなげられるよう，指導している成果であると考えられる。 ●「試験管の水面近くを熱したときの水のあたたまり方を理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・身近な現象や生活経験から課題を見出し，予想や計画を立てることで，実験の見通しをもって取り組めるようにする。 ・実験結果をまとめる際には，図や表などを用いてノートに分かりやすくまとめられるよう指導したり，結果から分かることを話し合ったりすることで，考えを深められるようにする。 ・動画資料を効果的に活用し，理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市よりやや高く，県より高い。 ○「骨と関節について理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，動画資料や模型資料を用いて，具体的な様子をイメージできるように指導している成果であると考えられる。 ●「季節ごとの動物の活動について理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・季節ごとの動植物の様子については，実生活と関連付けたり，様子を観察したりして，理解を深められるようにする。 ・復習プリントやAIドリルを活用し，繰り返し問題に取り組むことで，知識の定着を図るようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市や県より高い。 ○「空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを理解しているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より高い。これは，実験を通して現象について調べ，自分の生活経験とつなげられるよう，指導している成果であると考えられる。 ●「気温のはかり方について身に付けているかどうかをみる」問いでは，県の正答率より低く，課題が見られる。	・日頃から天気の変化，星や月の動きについて話題にするなどして関心をもたせたり，実験や観察を通して調べたりすることで，実体験を基にした理解につながるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第５学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は（82.8%で），市の平均と比べて20ポイント以上高い。また，「家で，学校の授業の予習をしている。」と回答した児童の割合は（68.9%で），市の平均と比べて15ポイント以上高い。年度初めに学校全体で示している「家庭学習の進め方」に沿って学習を進めようとしていることの表れであると考えられる。また，学校全体で実施している家庭学習パワーアップウィークや日々の自主学習カードなど，家庭と連携した取組による成果が数値として表れていると考えられることから，今後も，学校と家庭で連携し，家庭学習の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。
○「1か月に5冊以上の本を読む。」と回答した児童の割合は（58.6%）で，市の平均と比べて14ポイント以上高い。学校全体で行っている家読や朝の読書などの取組の成果であると考えられる。引き続き，読書の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。
○「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している。」と回答した児童の割合は（93.1%で），市の平均と比べて17ポイント以上高い。児童一人一人のよさを認め合う学級づくりや特別活動の充実により，自己肯定感の育成が図られてきたことの表れであると考える。今後も，児童が学習活動に前向きに取り組む姿を肯定し，失敗を恐れず意欲的に活動していくことができるよう支援していきたい。
○「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を得ている。」と回答した児童の割合は（86.2%で），市の平均と比べて14ポイント以上高い。学校課題として１人１台端末の効果的な活用について取組を進めている成果であると考えられる。引き続き，各教科において効果的な活用方法について研究を進め，指導に生かしていきたい。
○「算数の授業の内容はよく分かりますか。」と回答した児童の割合は（96.5%で），市の平均と比べて9ポイント以上高い。また，「算数の学習は，将来のために大切だと思いますか。」と回答した児童の割合は（100%で），算数の学習の大切さを理解して前向きに学習に取り組んでいることがわかる。今後も，児童同士による協働学習や習熟度別指導，１人１台端末の効果的な活用などを通して，児童が，学びを深めることのできる授業の工夫に取り組んでいきたい。
●「今回の調査で，算数の問題を解く時間は十分でしたか。」の質問において「時間が余った」，「ちょうどよかった」と回答した児童の割合は（44.8%で），市の平均と比べて15ポイント以上低い。また，「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。」に肯定的回答した児童の割合は（75.9%で），市の平均と比べて8ポイント以上低い。四則計算の練習や苦手な分野の問題を繰り返し解くことで問題に慣れさせ，力の定着を図っていきたい。学習時に気付いたことはノートにメモを取ることが意識付けされるよう，今後も指導を続けていきたい。
●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている。」と回答した児童の割合は（37.9%で），市の平均と比べて19ポイント以上低く，課題が見られる。辞書を机の横に常備するなど，辞書を使いやすい環境を整えるとともに，日々の授業において辞書引きの時間を設定するなどして，児童が積極的に辞書を使おうとする態度を育成できるよう，指導の充実に努めていきたい。
●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」と回答した児童の割合は（69%で），市の平均と比べて6.7ポイント低い。授業において時事問題を積極的に話題に上げたり，新聞やテレビのニュース番組，インターネットのニュースから感じたことを文に表す活動を定期的に行ったりするなど，児童が地域や社会で起こっている出来事に関心をもつ機会を意図的に設定していきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ，各教科で効果的に活用する。	・「分からない国名や地名があったら，インターネットや地図帳などを使って調べている」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の問いでは，県や市の肯定回答率より高い。
・日記，作文指導	・家庭学習で，学年に応じた学校指定の用紙に，日記や作文を書き，書く力を養う。	・「自分の考えを書くときに考えの理由がわかるように気を付けているか」の問いでは，県や市の肯定回答より低い学年があり，課題が見られる。
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに，自主学習記録カードと音読カードを貼り，毎日の学習記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し，児童の学習を励ます。	・「1日あたりの学習時間」や「家で，テストで間違えた問題について勉強をしているか」の問いでは，県や市の肯定回答率より高い。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容

・国語では，「話すこと・聞くこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問いで，県の平均より低い問いがあり課題が見られた。 ・算数では，図形に関する問いで，県の平均より低い問いがあり，課題が見られた。	・話し手の伝えたいことや意見の共通点に着目して考えをまとめる力を伸ばす指導の工夫 ・文や話，文章の構成，ローマ字指導の充実 ・学習コーナーの活用	・どの教科においても，話し手の伝えたいことの中心を捉えたり，意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめたりする場面を意図的に設定する。 ・授業の中で復習プリントやAIドリルを活用し，「言葉の決まり」や「ローマ字の読み書き」に関する問題を継続的に取り入れ，知識の定着を図っていく。 ・授業では，作図の仕方や具体的な大きさや広さが分かる資料などを提示して，児童の関心・意欲を高め，理解が深まるよう工夫する。学習で学んだことの理解をさらに深めるために，教室背面の学習コーナーに既習事項を掲示し，視覚的に学習内容が分かるよう，教室環境を整える。